

海老名災ボラ情報 No.2 7～8月（上旬）の活動報告と今後の予定

2020年8月9日（日）発信、 文責：福田博（海老名災害ボランティアネットワーク代表）

【1】会計よりの報告 2020年7月末時点での会計報告

①一般会計；295,920円（－7,848円） ⇒（ ）前月末との比較

【7月末までの会費納入者】 ⇒（ ）内は前月末との比較、 /（数字）は7月末時点での会員数

個人会員 11名（+2名） / 30名、 団体会員 0団体（±0） / 3団体

賛助会員 9名（+1名） / 18名、

会員総数：48名+3団体=51名

②特別会計；23,540円（±0円）

【2】2020年7～8月（上旬）の活動報告

1) 海老名災ボラ（内部）の関係

①「海老名災ボラ情報 No.1」の発行：メーリングリスト送信 7月12日、郵送 7月13日

7月以降、新型コロナウイルス感染症が再び拡大している状況を配慮し、会員への感染拡大のリスクを避けるために、定例会を開催していない。しかし、会員への情報発信・情報共有を続けるために、従来の定例会議事録に対応するものとして、「海老名災ボラ情報 No.1」を発行した。

メーリングリストに登録している会員には7月12日（日）に送信し、登録していない会員及びスマホでの登録者（合計13名）には、7月13日（月）に郵送した。

2) 海老名市社協の関係

① 海老名市ボランティア連絡協議会（ボラ連）の定例会開催：7月10日（金）

出席：社協2名（岩澤、池田）、加盟9団体×1団体2名一欠席2名=16名、海老名災ボラ（水本）

・出席者の自己紹介、

・定例会の開催日程：9月より第2週の金曜日 13時30分～（8月と1月は休み）

・ボランティアフェスタ：中止の方向、 ・ふれあい交流会：12月6日の予定を中止。

・ボランティア・リーダー研修会：内容及び時期を検討中。

・ボランティア研修会：2019年度より延期（「江戸しぐさに学ぶお付き合いの知恵」依光玉恵さん）

・各種街頭募金行事への協力：社協より要請があり次第実施する。

・次年度の役員：2019～20年度、会長は「筆記通訳 風」（継続）、役員は4団体（順送り）

2021～22年度、会長は「福祉グループ たけのこ」（順送り）、役員は4団体（海老名災ボラを含む）

② 令和2年度ボランティアグループ活動助成金（52,500円）の交付決定

えびな災ボラは、上記の活動助成金の交付申請書を社協に提出しておりました。7月30日付の交付決定通知書を受け取りました。（送金予定日は8月31日）

③ 8月7日（金）「海老名市防災関係」3者定例会の開催 13時30分～14時35分

【出席】：海老名市社協（岩澤）、海老名市危機管理課（川崎）、海老名災ボラ（福田、星野）

【会場】：海老名市総合福祉会館：第3娛樂室、マスク着用、3蜜回避（相互に2m程度の間隔など）

【各団体よりの報告】

《社協》○会長人事の変更、2020年7月で河野誠一（前会長）⇒前田洋子（会長）に変更。

組織：会長（前田洋子）—常務理事（深澤宏）—事務局長（白倉博子）—総括リーダー（中島敦）

総務企画グループ（岩澤剛）総合福祉会館、（その他に3グループとグループリーダー）

○全社協・被災地支援・災害ボランティア情報：2020年7月豪雨（第22報、8月4日）

九州ブロックの各県社協は、熊本県社協へ応援職員を派遣、全社協も職員2名を派遣

中央共同募金会が被災県内の団体を対象に応募受付開始、支援金・義援金の協力も受付。

○社協では4月以降、新人が入ったが、新人研修の一環として災害ボランティアセンターに係る研修も必要だが、具体的に、どのような内容で、いつ実施するのかなどは決まっていない。

○海老名社が近隣都市の社協に、社協及び災害ボランティア団体の活動状況を問い合わせたところ、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、活動が休止中のところが多い。

《危機管理課》

新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で、災害（洪水や地震）が起こった場合に、どのような対応をするか、神奈川県がガイドラインを発表した。命を守るための緊急「避難場所」、自宅が大きな被害を受けて避難生活をしなければならない住民の「避難所」を区分した上で、新型コロナウイルス感染症拡大という状況下で、新たに必要物資、人員の配置なども含めて、現在、検討している段階である。

《海老名災ボラ》

○新型コロナウイルス感染症拡大の第2波で、感染症拡大のリスクを回避するため、現時点では定例会を開催しない。その替わり、「海老名災ボラ情報 No.1」を7月12日にメーリングリストで配信、7月13日には郵送した。No.2は8月上旬に発行予定。

○新型コロナウイルス感染症拡大の状況次第であるが、今秋に自然災害（洪水、地震など）に係る具体的な事業を実施できるかどうかポイントである。感染拡大に歯止めがかかり、減少方向に向かわなければ、現実的に人を集めて事業を実施するには、リスクが大き過ぎるので、熟慮している。

○上記の事業実施の目途が見えてくれば、何らかの形で定例会を開催することを検討している。A案）広い会議室を借りて3蜜状態（密閉・密集・密接）を回避する対策を実施して、現実的に会員を集めて会議を開催するか、B案）Zoomを利用した「仮想会議」（Zoomミーティング）またはLine（無料電話）の利用。

3) 特定非営利法人（NPO）神奈川災害ボランティアネットワーク関係（略称：神奈川災ボラ、KSVN）

① 2020年度、臨時理事会：7月21日、18時30分～ 会場：県民サポートセンターの会議室、出席：会場参加8名、Zoomでの参加3名（福田を含む）、委任状提出2名、以上理事13名全員出席。

第1号議案：事務局設置と事務局長に高坂副理事長を選出する議案、賛成12、保留1で可決。

事務局規定については継続審議となった。

第2号議案：各種委員会の設置と委員長の選出について、一部修正され、全会一致で可決。

第3号議案：委員会予算の提案、全会一致で可決。

第4号議案：その他、役員選出規定の改正が提案、全会一致で可決。

② 熊本県などの7月豪雨災害に係る「豪雨災害に関する情報提供」

2020年7月の梅雨前線による豪雨災害は熊本県・鹿児島県境から九州北部、岐阜県・長野県まで拡大している。神奈川災ボラからの主にJVOADの情報を海老名災ボラのメーリングリストへ転送していた（第11報まで）。神奈川災ボラからの転送は止めて、その情報を必要だと思う会員は直接JVOADのホームページから取得することになった（野中さんの提案）。JVOADのホームページ <http://jvoad.jp/>

熊本県の被災地では、豪雨災害からの復興のためには、多くのボランティアが必要であるが、新型コロナウイルス感染症拡大の危険があるため、ボランティアは県内の人限定している。

【3】今後の予定 8月初旬以降～今秋に向けて

1) 海老名災ボラの2020年度会費を9月末までに集める

① 個人会員 2000 円、賛助会員 1000 円、団体会員 3000 円を金融機関からの振込でお願いします。

●「ゆうちょ銀行」に口座のある会員は、名前「海老名災害ボランティアネットワーク」

口座（記号）10260、口座番号26642751 ATM利用で振込手数料100円が掛かります。

●他の金融機関から「ゆうちょ銀行」に振り込む場合は、名前は上記、

店名〇二八、店番〇二八、普通預金、口座番号 2664275

★7～8月末までに会費を納入した会員に、9月初めに会計から領収書を郵送します。

退会の連絡がない会員で、会費を納めていない会員には、請求書を郵送します。

★9月末日までに会費納入が無かった会員は、自動的に退会となります。

退会を考えている会員は代表にメールや郵便などで申し出てください。その時点で退会が出来ます。

2) 9月以降の活動に向けた準備と態勢づくり、防災ボランティア活動の再開

①「定例会の開催」について

7月～8月上旬に、新型コロナウイルス感染症が首都圏から全国に拡大し、東京都知事は、外出自粛や営業時間の短縮を呼びかけるなど、都道府県によっては独自の「緊急事態宣言」を出すところもあり、各地の自治体によって対応が分かれています。

新型コロナウイルス感染症拡大の状況を考慮しながら、A案)実際に会員を集めて現実の定例会を開催するのか、B案) Zoom や Line の活用も含めてオンライン参加で実施するのか等を、皆さんと相談します。

② 防災マップづくり講習会の開催

海老名災ボラの独自活動として、感染防止対策を十二分に実施した上で、ハザードマップを活用して、防災マップづくり講習会を開催したいと考えています。(大規模なものでなく、適切な人数での開催)

自然災害(地震、水害など)では、地域の状況により、かなり違いがあります。例えば、相模川流域、相模川に流れ込む支流の流域、高台であるが、崖崩れの危険がある地域、建物の状況(高層階、戸建て)によっても被害の状況、避難の仕方などにも違いがあります。そうした違いを考慮して、ハザードマップを適確に読み取り、それに対応するそれぞれの対策を事前で考えておく必要があります。

③ ボランティア講習会の開催の検討

2019年秋には、相模原市の被災地支援のためのボランティア講習会を海老名市社協と海老名災ボラの共同で開催しました。

2020年7月の豪雨災害での被災地の状況から考えると、県外からのボランティアを受け入れるところは少ないと思われます。神奈川県が被災地となった場合、海老名市が被災地となった場合、神奈川県内のボランティア、海老名市内のボランティアを増やす必要が出てくると思います。

④ 被災地支援活動の開始：現在の梅雨前線での豪雨災害、秋の台風、大規模地震などが起こる危険性

被災地支援活動は、募金活動、物資の送付、支援ボランティアの派遣など様々です。現在の梅雨前線の豪雨、秋の台風、大規模地震などが発生する危険性があります。

新型コロナウイルス感染症拡大に対する対策を十分に実施した上で神奈川災ボラと連携して支援活動を進めます。

以上